

合併20周年

町の現状と記念式典の対応は 3月をめどに実施予定



あおき ひろあき
青木 浩明 議員

問 本年度は黒潮町発足（合併）20周年の年である。町は合併20周年を迎えた本町の現状をどのように捉えているか。また、合併10周年の時は記念式典や行事を行ったが、本年度中に20周年関連の事業を行うか。

答 渡辺企画調整室長

合併以降、農業、漁業をはじめとする第1次産業の振興や、地域資源を生かした観光振興など、それまで旧町で推進してきた施策を継承しつつ、一体感を持った新たなまちづくりに取り組んできた。

平成24年に発表された南海トラフ地震津波想定において34・4mという衝撃的な想定を受け、町民と行政が一体となって避難訓練や高台移転、防災教育などを進めてきた。

また、平成27年度からは「まち・ひと・しごと総合戦略」を最上位計画として策定し、人口減少対策と地域経済縮小克服のための地方創生の取り組みを開始した。

しかし、町の人口は令和6年6月に1万人を割り込み、中山間地域における人口減少と少子高齢化が課題になっている。人口減少下での暮らしを見据えながら歩みを止め

ることなく、安心して暮らし続けることができる仕組みづくり、まちづくりに努めている。

なお、合併20周年の記念式典を行う方向で検討しており、来年3月をめどに記念式典を開催したい。

地籍調査 推進について 1年でも早く 完了を目指す

問 本町の地籍調査事業

は旧佐賀町が昭和48年度旧大方町が平成8年度に着手している。着手から佐賀地域が52年、大方地域は29年が経過しているが、現在の進捗状況では町全域が完了するまでに後100年以上掛かってしまう。これをもう少し早く完了させるため、庁内に地籍調査に特化したプロジェクトチームを立ち上げて早期完了を望むかどうか。

答 佐田総務課長

今のところ、地籍調査に特化したプロジェクトチームの立ち上げは考えていないが、1年でも早く完了できるよう努めていく。

【その他の質問】

・住民課資産税係が所有している大図（大字毎に小字の位置が記載された図面）のコピーの可否について。



合併10周年の記念式典

大図（大字佐賀）

